

## 青葉通駅前エリアのあり方検討協議会 第3回利活用ワーキンググループ 議事概要

日 時 令和3年11月1日(月) 13:30~15:30

会 場 仙都会館8階

議 題 将来の姿についてイメージの共有、他事例の紹介

配布資料 次第

【資料A】本日の座席表

【資料1】これまでの協議会、WGの内容整理

【資料2】将来の姿

【資料3】大丸有エリアの姿

【資料4】市民参画イベント素案

【資料5】今後のスケジュール

【資料6】次回WG予告

### ○主な意見等

#### 【将来の姿について】

- ・今回、検討のそもそもの目的が何だったかを整理頂いたことは良かった。
- ・空間の活用は実験をしながら示し、エリアマネジメントで稼ぐことをいずれ考えていく上で、最後の着地点のイメージが曖昧だと感じる。
- ・目的や目指すところを将来ビジョンにして共有することが必要と考えている。社会の変化に応じて詳細は変えていく必要があると思うが、「どういった街を目指すか」という理念は変えずに検討していきたい。
- ・今回提示された将来の姿についての切り口には異存は無い。今後、このWGの中で肉付けを行っていくことが必要。
- ・仙台の都心全体の価値を上げることを考えたとき、駅前エリアのあり方として賑わい創出を考えていくことが必要であり、この観点で意見交換を行っていくことが必要と考えている。
- ・街の活力は人口増加しかないと思ふ。人口減少を塞ぐことは仙台市全体の計画に関わる。仙台市全体と駅前エリアのあり方をリンクさせるべき。
- ・いつを将来とするか。将来ビジョン作成の際は、仙台市の長期計画の年次単位で考えていくことを検討してほしい。
- ・イベントは一時的な賑わいとなる。日常の考えとしては、駅前エリアはオフィスワーカーが多いため、オフィスワーカーを踏まえた検討をすべきだと考える。
- ・広場化はまずは概念として捉えればよく、東北地方、東京等から人が仙台に集まり、周辺に流れていく場所にできると良い。

- ・仙台はゲートウェイとして交通機関が集約されておらず、人が地上をうろろしている。スムーズに楽しみながら移動してもらい、人の流量を上げていくこと。このことが青葉通駅前エリアの立ち位置であり、最終的な目標になり得ると思う。
- ・青葉通駅前エリアの価値が上がれば、企業側は神戸三宮の事例のようにお祭り等を行う等、人を集めることを行うと思う。
- ・東北地方各県での大型ショッピングセンターの整備や e コマースにより、今後、東北の人が仙台に来訪する必要がなくなることが懸念される。その中で、仙台への来訪を増やすための重要な部分が青葉通駅前エリアである。大型ショッピングセンターでは得られない体験ができる街や空間の使い方を検討する必要があり、施策を皆様と考えていければと思う。
- ・仙台もニュータウン等に似ている所がある。このままでは、街の魅力がかなり下がってしまうことを危惧している。仙台の特色を押し出していかなければ、他の東北地方から集まる人が仙台で留まらずにただ通過するだけの都市に行ってしまうのではないか。
- ・「札幌仙広福」と言われるが、札幌、広島、福岡と肩を並べるのも危うくなると思う。
- ・思いは、皆様で共有されていると思う。さすが仙台！と感じてもらえる場になれば良い。
- ・広場化の理由がよく理解できなかったこと、これだけ広い道路でも観光シーズンに限らず現実に渋滞は起きていることから、ここに道路が無くなることはイメージできなかった。本日の話を受けて、再度考える必要があると感じた。
- ・全日全時間で車を通さないことは困難であると考えますが、理想としては必要に応じて歩道空間を広げる等、フレキシブルに運用できれば良い。
- ・帰宅困難者の緊急避難場所として、平日のみではなく七夕等の特別なイベントや土日祝日の帰宅困難者が増える場合も想定した検討を行う必要がある。
- ・仙台駅前には表情豊かな場所でありたいと考えている。毎年フラワーハンギングにて仙台駅前に来た方をお迎えするという場づくりはしているが、さらに表情を豊かなものにしていきたい。

以上